

【秩父霊場巡り：おすすめ日帰りコース】

巡礼に興味があるからといって、秩父の歴史的な巡礼路を体験するのに 34 のお寺すべてを巡拝する必要はない。円融寺（礼所第二十六番）から始まり、長泉院（礼所第二十九番）へ番号順に進むコースは、寺巡りと景勝地を含む理想的な日帰りコースである。行程はわずか 6.4km で、秩父鉄道から簡単にアクセスできる。

影森駅から円融寺の豪壮な本堂までは徒歩で約 10 分である。そこでは、お寺のお守りを購入することができる。山を登ると、観音像が祀られている場所がある。岩井堂という、円融寺の奥の院である。本堂から続くコースは、まず昭和電工化学工場の敷地を抜ける道を通り、森林に続いている。苔で覆われた 300 段以上の石段を登ると、岩井堂にたどり着く。岩壁に面してひっそりと建っているお堂である。そこから巡礼路は、琴平ハイキングコースの尾根に沿って大淵寺（礼所第二十七番）へ辿る。

尾根を下る前に、大淵寺の本尊の前を通る。山頂に祀られた印象的な白い観音像である。溪谷の低い場所には月影堂がある。ここでは、冬季の閉鎖期間中に大円寺と橋立堂（礼所第二十八番）の御朱印をもらうことができる。

大円寺から 1 キロと少し離れたところに橋立寺がある。橋立寺は、武甲山の断崖絶壁のふもとにある。橋立寺の下には地元の店がいくつかあるが、手打ち麺やその他の軽食を提供しており、ランチ休憩に最適である。付近には橋立鍾乳洞への入り口がある。この鍾乳洞は昔、胎内くぐりの霊場として巡礼者達に親しまれていた。

わずかな料金で、140 メートルの距離の長さの曲がりくねった、狭い通路と石灰石の岩層を探索することができる。高さ 65 メートルを超える石灰岩の絶壁に囲まれた深紅色のお堂である橋立堂に続く階段のふもとに近くに鍾乳洞の出口がある。お堂の内部には、馬の守り本尊として崇められた珍しい顕現である馬頭観音に捧げられた木製の馬の像が飾られている。橋立堂は、12 月の第 2 月曜日から 2 月末まで無人となる。

長泉院（礼所第二十九番）へは、高さ 156 メートルの浦山ダムの素晴らしい景色を望む諸上橋を渡って浦山川を渡る。長泉院では、大きな本堂の両側に石灯籠があり、本堂は枯山水庭園に囲まれている。本堂近くは、石札と呼ばれる石の奉納札がまとまって置かれてある。石札を寺に持ち込む風習は、1234 年に秩父を訪れた聖人が始めたと言われている。寺の印章を押してもらったら、長泉院から浦山口駅までは徒歩で約 15 分である。

車でのアクセスを好むのであれば、広くはないが、それぞれの寺にある駐車場を利用することができる。